

● 近況報告

☆ 渡辺 光

本誌の前号が発刊されて以後、詳しくは昨年の10月から、私の身の上にはコペルニクス的転換が起った。お茶の水女子大学に奉職して以来7年奉職の動機が飯本信之先生から「お前も、最早年が年だから、身体の楽な大学に来た方がよしい」とのお勧めを受けたことであつたから、それまでは大学には申し訳の程、大学の俗事からは遠ざけさせて載っていた。もっともその間にあって、

大学以外のことでは案外多忙の身となり、2度にわたる日本地理学会常任委員長、東京地学協会理事などをする傍、昭和36年以来は日本学術会議地理学研究連絡委員長、38年以来は更に日本学術会議会員を兼ねていた。これが案外学内の方々には同情を呼び、学内問題に立ち入る用のないような立場に置いて下さつたものと、今以って感謝している次第である。

ところが昨年9月、文教育学部長の井本農一先生が少しく健康を害され、その他の学部長としての適格者がたまたま要職におられたので、この私にそのお鉢がまわってきた。

学部長という役目は、官制の上からは監理職ということになっているらしいが、人事、会計等の責任と権限はなく、ただ教授会で議長を務めるだけだと思つていたところが、小さい雑事の誠に多い小使役であるということをつくづく思い知らされた。私にこのような役目が不適任であることは自他共に認めるところであるが、事情斯の如き次第で就任せざるを得なかつた。大学の皆様もこの事情を良く理解して下さい、協力を載っていることは、私にとって誠に有難い次第である。一方、良いこともあって、第一に研究をなまけるよい口実になる。第二に、一年の教養地理と二年の世界地誌に外部からもっとよい先生を迎えることができた。

然し今まで続けていた地理学研連の委員長として及び、日本学術会議の会員としての役目はまだ続いているわけで、特に後者は、地理部門の代表会員及び唯一の会員として、懶けることが許されない立場に立たされている。加え、今夏には40年振りで太平洋学術会議が日本で開かれることになり、私も太平洋研究連絡委員会委員及び幹事として、事務を引き受けざるを得ない立場に立たされ、その上、前からの関係で土地分類のシンポジウムの招集者として役目もゆるがせにせざるを得ない。幸にして浅海、式、正井、貝山、高田(和枝)等の教室員の御援助もあって、とどろりなく切り抜けることができそうである。

最後に、今年4月より待望の大学院が文教育学部にも設置され、これでお茶大も3学部揃って大学院を持つことになり、新制大学に格下げされて以来、ようやく失地回復が成った。お目出度い次第である。これで入れ物はできたから、これからは中味の充実を計らなければならないものと考え、大方の御支援を乞う。

☆ 松井 勇

本年でお茶大も満17年になります。私も先が短かくなったせいか、このところ日のたつのが余りに速く、4月の新学期からあっという間に夏休みになりました。

前期は講義の数も多いので、毎日追いかけるような、併しそれだけ充実した日々を送ってきました。どうやら以前に比べて講義が楽しくなってきたようです。昭和24年以来の気候学は本年からは浅海先生の受持ちになりました。長い間不十分な内容で皆さんに迷惑をかけてきましたが、私自身振り返ってみますと、地理の基礎勉強ができて非常に有難かったと思います。

☆ 浅海 重夫

I, 担当科目：地質学・気候学・土壌学・自然地理学・独書演習・大学院演習。

昨年度と今年度に担当科目の上でかなりの変動があり、今年は上記のようになっている。地質学は赤木先生のあとを継ぎ、教室内の常住の場所も最近第二実験室。ただし地質学は来年度から従来の1年生対象を2年生に改め、層位学的内容を加えるようにするので、今年は休業。気候学は今年度はじめての受持ちで、勉強のやり直しをしながらの講義。独書演習は松井先生がお持ちの頃よりやさしいものしかやらないので、受講学生が1人などということはない。大学院演習では話題のUSDA新土壌分類方式(第7次案)にとりくんでいる。

II, 目下の関心事

- ① 研究について：地形面が土壌の生成環境として一般に具有しかつ表現している総合的性格を追求すること。
- ② 学内のこと：1～2年後に建築を予定されている文教育学部新校舎に、地理学科があてられるスペースと部屋割りについてのプランを練ること。一方大山寮の改築に関連して、いまだに解決点をみいだそうとしない一部の学生と学内の動きに、今日の学生運動の底流がみられる。
- ③ 学会に関して：昨年末に地理学会役員選挙管理委員をやらされてからのくされ縁で、学会の選挙規定の成文化草案委員の1人になり(地理学会にはこれまで役員選挙規約ができていなかった)、関東地区50名、中部地区6名といった評議員の定員数や地区割りの決め方や、また